

繁華街の機能・空間集積と地域コミュニティの相補関係と

まちの持続性 その2

日大生産工(院) ○馬場 祐希 日大生産工(院) 川原 隆平
日大生産工(院) 赤石 健太 日大生産工 北野 幸樹

1. はじめに

本稿は、前項(その1)に引き続く一連の研究である。前項では、新宿ゴールデン街周辺居住者の利用実態、利用目的について整理した。

本稿では、繁華街に対する活動意識を整理するとともに、現在、まちづくり活動が出来ていない原因やまちづくり活動の内容への対策を整理する。

2. 調査概要

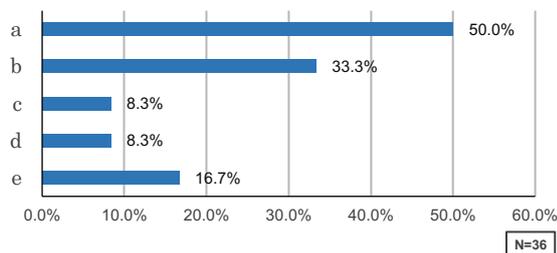
調査概要は前項と同様である。

3. 地域居住者のまちづくり活動

3-1 まちづくり活動の認知度

新宿ゴールデン街周辺に対する地域居住者のまちづくり活動についての認知度や意識に関するアンケート調査を行った。

地域居住者のまちづくり活動の認知度について、「取り組んでいることも、具体的にどのような取り組みをしているのかも知っている」は、50.0%であり最も多い。「取り組んでいることは知らないが、関心はある」、「取り組んでいることを知らない・知らなかった」は8.3%であり、最も少ない(図1)。このことから、まちづくり活動に関心がある地域居住者が多くいることがわかる。



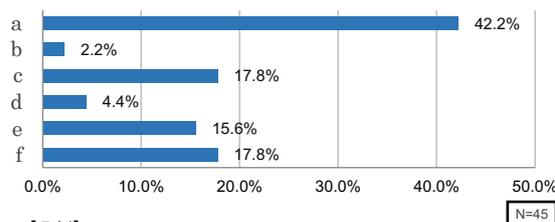
【凡例】

- a: 取り組んでいることも、具体的にどのような取り組みをしているのかも知っている
- b: 取り組んでいることは知っているが、具体的にどのような取り組みをしているかは知らない
- c: 取り組んでいることは知らないが、関心がある
- d: 取り組んでいることを知らない・知らなかった
- e: 関心がない

図1 まちづくり活動・取り組みの認知度

3-2 まちづくり活動の意欲

地域居住者のまちづくり活動・取り組みの意欲について、「積極的に取り組んでいる」は、42.2%であり最も多い(図2)。しかし、「取り組みたいが、現実的にできない」、「取り組もうと思っていない」は17.8%であることから地域居住者がまちづくり活動に取り組んでいないことがわかる。また、「取り組んでいることは知っているが、具体的にどのような取り組みをしているかは知らない」と回答した人が33.3%(図1より)いることから、どのような活動をしているか発信することで、地域居住者の新宿ゴールデン街活性化に対する意欲が改善されると考える。



【凡例】

- a: 積極的に取り組んでいる
- b: 取り組んでいたが、今は取り組んでいない
- c: 取り組みたいが、現実的にできない
- d: 義務的に取り組んでいる
- e: 取り組みの方法がわからないが、興味・関心がある
- f: 取り組もうと思っていない

図2 まちづくり活動・取り組みの意欲

3-3 まちづくり活動意識の有無

新宿ゴールデン街活性化への活動・取り組みにおいて、「取り組みに参加したい」は30.0%、参加してみたいと思わないのは70.0%であった。全体の約半分以上の人が参加してみたいと思っておらず新宿ゴールデン街活性化への活動へあまり意欲的でないことがわかる。(図3)

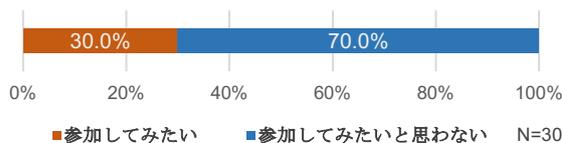


図3 活動・取り組みの意識の有無

Study on Relationship between Functional and Spatial Concentration
of Downtown and Complementarity of Local Community and Sustainable of Town
Part2

Yuki BABA, Ryuhei KAWAHARA, Kenta AKAIISHI and Koki KITANO

また、参加してみたいと思わないと回答した方の理由は、「新宿ゴールデン街から少し離れている」、「新宿ゴールデン街は近寄りづらい」といった意見があった(表1)。このことから、繁華街活性化への取り組み・活動へ認知度を上げるための対策が必要であると考えられる。

4. 新宿ゴールデン街周辺の地域活動

繁華街では、3・3より新宿ゴールデン街活性化への活動・取り組みに「参加してみたいと思わない」と答えた方が多かったが、実際にまちづくり活動を行っている方は、46名中21名と約半数いることが分かった。その中で、新宿ゴールデン街周辺でまちづくり活動している人は2名であった。「交通安全運動、盆踊り、コミュニティスポーツ、月一度の夜間パトロール、月一度の歌舞伎町浄化、防災訓練、年二回清掃(町会内)」と回答した方は、活動人数15名で月10回のまちづくり活動を行っている。「祭禮扶助」を行っている方は、30人規模の団体に普段は10人で年に4回活動をしている。

広報媒体については、「回覧板」は、22.9%であり最も多かった。現在、電子機器の普及が進行しているが「SNSでの利用」は14.3%であった。これは、アンケートを回答して下さった方の中で50代以上が多かったためと考える。それにより地域新聞のような定期的な連載は11.4%であった。

新宿ゴールデン街周辺の居住地で行われている地域活動は、地域居住者は取り組み内容を認知していない方が33.3%と多いため(図1)、普段の生活から目にする機会を多く設け、どのような活動が行われているか認知してもらう必要がある。高齢者の多い居住地域では、SNSを利用する人は少ないため、活動や取り組んでいる場を居住者の目に映りやすい場で行うことが必要であると考えられる。

5. 賑わいのある新宿ゴールデン街

5-1 新宿ゴールデン街の魅力の向上

新宿ゴールデン街の魅力を高めるために必要な内容について、最も多いのは「環境整備」で19.1%、次に多いのは、「若手の育成」で8.2%、「緑化活動などの地域貢献活動」、「このままでよい」で7.3%である。新宿ゴールデン街周辺の居住者の持つ新宿ゴールデン街へ入りにくいなどというイメージから「環境整備」や「地域貢献活動」等のまちづくり活動をすることによって、新宿ゴールデン街の魅力が向上すると考えられる。

表1 活動に参加してみたいと思わない理由

立地条件(距離が遠い)、酒が飲めない身体だから
少し離れているのであまり行かない
時間が取れない。地域差があるわけではない
ゴールデン街は「飲み屋街」と認識しております。個性的なお店が多く、常連さんが通う一見ではいけないイメージです。立地は安心とは遠く、ゴールデン街らしさと安心安全は両立するのかと不思議に思います。昭和のイメージで若い人やインバウンドを兼ねるSNS活動等、私でお役に立てないと思いますのでこの理解です。
高齢なので町内の活動で十分なので
ゴールデン街とはどこ?
酔客のマナーが悪すぎる
近くに住んでいてもほとんど行くことがない。
地域住民とのつながりが少ない。地元の小学校、中学校に通ったがゴールデン街から通っている人はいなかった。
年齢的に無理がある
新宿に生まれ、ずっと暮らしているが昔からゴールデン街の印象がよくなく、近寄りづらい地域の為
利用する予定がないので

表2 活動内容

活動内容	活動頻度	活動人数	活動場所
祭礼、納涼祭り(盆踊り)、親睦旅行、各種スポーツ大会、年末防災防犯活動、町内美化活動、リサイクル活動、高齢者クラブ運営、各種演奏大会	月3回	300人規模の団体に普段は50人	公園、区民センター他
交通安全運動、盆踊り、コミュニティスポーツ、月一度の夜間パトロール、月一度の歌舞伎町浄化、防災訓練、年二回清掃(町会内)	月10回	15人	ゴールデン街周辺、淀4小学校、町会
地域の祭り、防犯、環境美化、防災	月2回	1000人規模の団体に普段は20人	北新宿三丁目地域
地域の町会、神社のお祭りなどに役員として参加している	月1回	30人規模の団体に普段は25人	内藤神社、町会
町内活動	年6回	20人	町内公園
清掃	月1回	2人	町会
町会活動(内藤町)	週2回	500人規模の団体に普段は20人	自分の町村
祭り運営、環境美化運動(コミュニティ活動周辺の美化、町内美化、区ゴミゼロデー参加)	月1回	2~5人	居住地町会区域内
祭りの運営、町内の美化、生活活動の全般	週2回	1000人規模の団体に普段は30人	町内集会所、公園
町内会活動	週7回	1000人規模の団体に普段は15人	集会所
定期的清掃作業活動	月2回	100人規模の団体に普段は15人	新宿二丁目会館を中心とした二丁目界隈
祭禮扶助	年4回	30人規模の団体に普段は10人	ゴールデン街周辺
夏祭り、スポーツ大会	年2回	30人規模の団体	大久保小学校
町会に加入し、役員として活動。祭の運営、環境美化活動、パトロール、防災訓練、情報発信	月2回	700人規模の団体に普段は8人	北新宿1丁目
区内の小学校へ様々なジャンルのアーティストとの体験授業をコーディネートして提供	年3回	150人規模の団体に普段は10人	区内小学校

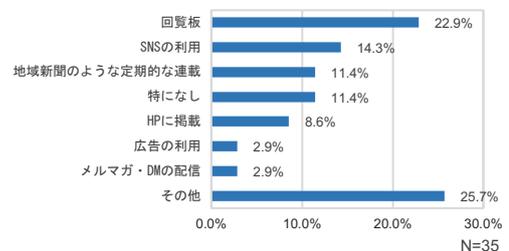


図4 広報媒体の利用状況

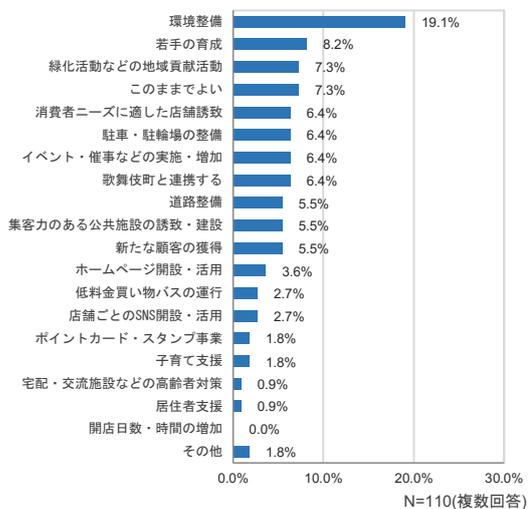


図5 魅力を高めるために必要なこと

5-2 まちづくり活動に参加できない理由

地域居住者が思う、新宿ゴールデン街での取り組みができていない理由について、「年齢的に・体力的に厳しい」は、21.6%であり最も多い。「人手が足りない」、「後継者がいない」は14.9%であり、「取り組むための時間がない」は12.2%であり順で次に多い。今回、アンケートに回答していただいた方の年齢が50代以上の方が多かったことからこの結果になったと考えられる。まちづくり活動をしていくために、後継者など人手不足の解消が求められる。

5-3 参加してみたい取り組み

どのような取り組みがあれば地域居住者が参加してみたいかについて、「花や樹木を使った景観づくり」は、17.4%で最も多い。「地域の学生やクリエイターなどとの連携イベント」は、10.5%であり次に多い。このことから、新宿ゴールデン街周辺に住む居住者は、新宿ゴールデン街で落ち着くことができる環境や、新宿ゴールデン街に訪れた人が気軽にまちづくり活動に参加することができる場所を求めていると考えられる。また、これらは図5で最も多い「環境整備」により新宿ゴールデン街が魅力ある場所となり、居住者によるまちづくり活動が活発に行われるようになるため、取り組んでいる姿が目映り、さらにまちづくり活動の内容が広まっていくと考える。さらに、「グルメ博や物産展などの飲食系イベント」、「空き店舗でのイベントや一時的な利用などの空き店舗活用」は、9.3%であり順で次に多い。花や樹木で景観からイメージを変化させ、自治体と連携してイベントを開催していくとともに、地域の学生との連携も図ることで、地域居住者がまちづくり活動に参加し、その結果、まちの魅力を高めることに繋がると考える。

6. 地域居住者の団体・企業との連携

居住地域での地域居住者のまちづくり活動・取り組みの団体・企業との連携について、「自治体」は37.0%であり最も多い。「他の地域団体」は22.2%であり、「連携していない」は25.9%であり順で次に多い。

また、連携団体から受けている支援として、「資金等の経済的支援を受けている」は29.4%であり、「活動する場所の提供を受けている」は20.6%であった。「支援は受けていない」は14.7%であったが、半数以上の人は支援を受けていることがわかる。

また、今後も連携したいかというアンケートについては、「連携を行いたい」は76.2%である。このことから、半数以上が今後も連携した

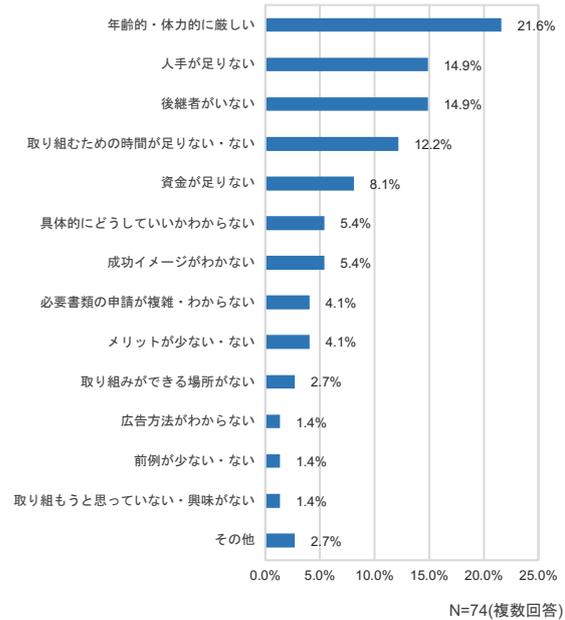


図6 まちづくり活動が出来ない理由

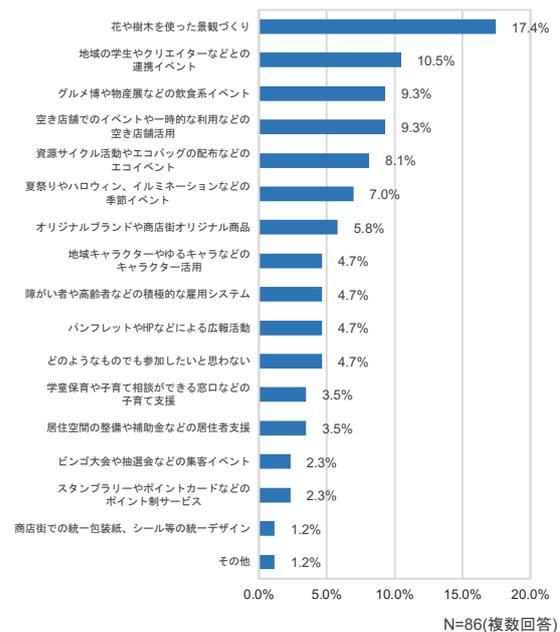


図7 参加してみたい活動・取り組み

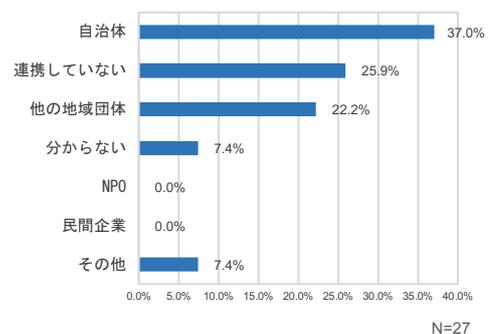


図8 連携している団体

いと現在受けている支援に満足していると考えられる。

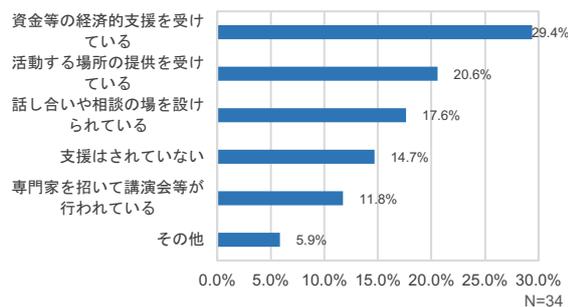


図9 受けている支援

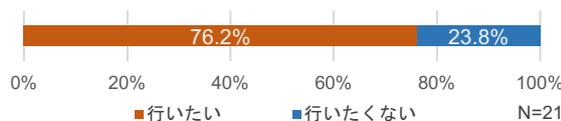


図10 今後も連携を行いたいのか

7. まとめ

本研究で得られたゴールデン街とまちの持続性に関する基礎的を以下に整理する。

1) まちづくり活動の認識

地域居住者のまちづくり活動の認識は「取り組んでいることも、具体的にどのような取り組みをしているのかも知っている」と答えた方が最も多かった。このことから、まちづくり活動に関心がある地域居住者が多くいることが考えられる。

2) まちづくり活動の意欲

地域居住者のまちづくり活動の意欲は、「積極的に取り組んでいる」と答えた方が最も多かった。しかし、「取り組みたいが、現実的にできない」、「取り組もうと思っていない」と回答した人が次に多く、まちづくり活動への意欲は低いことわかる。

3) まちづくり活動・取り組みの意識の有無

新宿ゴールデン街活性化へのまちづくり活動・取り組みの意識の有無は、全体の約半分以上の人が、参加してみたいと思っていなかった。また、参加してみたいと思わない理由としては、「ゴールデン街から少し離れている」、「ゴールデン街は近寄りづらい」といった意見があった。新宿ゴールデン街活性化への活動・取り組みにあまり意欲的でないことがわかる。

4) まちづくり活動・取り組みの活動内容

まちづくり活動・取り組みを実際に行っている方は、46名中21名と約半数であった。その中で、新宿ゴールデン街周辺で活

動している人は2名であった。活動内容については、「交通安全運動、盆踊り、コミュニティスポーツ、月一度の夜間パトロール、月一度の歌舞伎町浄化、防災訓練、年二回清掃(町会内)」と回答した方は、活動人数15名で月10回の活動を行っている。広報媒体は、「回覧板」が最も多かった。現在、電子機器の普及が進行しているが「SNSでの利用」は多くなかった。これは、アンケートを回答してくださった方で50代以上が多かったからであると考えられる。

5) 新宿ゴールデン街の魅力向上

新宿ゴールデン街の魅力を高めるために必要なことは、「環境整備」が最も多く、「若手の育成」、「緑化活動などの地域貢献活動」、「このままでよい」の順で次に多かった。新宿ゴールデン街周辺の居住者の持つ新宿ゴールデン街へ入りにくい等のイメージからこの結果になったと考える。

6) まちづくり活動が出来ない理由

新宿ゴールデン街での取り組みができていないと思う理由は、「年齢的に・体力的に厳しい」が最も多く、「人手が足りない」、「後継者がいない」、「取り組むための時間がない」の順で次に多かった。まちづくり活動をしていくためには、後継者など人手不足の解消が求められる。

7) 取り組みたいまちづくり活動

どのような取り組みがあれば地域居住者が参加してみたいと思えるのかについて、「花や樹木を使った景観づくり」が最も多く、「地域の学生やクリエイターなどとの連携イベント」が次に多かった。このことから、花や樹木で景観からイメージを変え、自治体と連携してイベントを開催していくとともに、地域の学生との連携も図ることで、地域居住者がまちづくり活動に参加し、その結果まちの魅力を高めることに繋がると考える。

8) 地域と団体・企業との連携

団体・企業との連携について、「自治体」が最も多かったが、「連携していな」が次に多かった。今後も連携したいかについては、「連携を行いたい」が半数以上で今後も連携したいと現在受けている支援に満足していると考えられる。

参考文献

前項と同様である。